



- | | | |
|---|-----------------|--------------|
| 1 | 誓願出陣式挨拶 | 第27期を迎えるにあたり |
| 3 | 今年の1文字をつなげました！ | |
| 4 | 春の床下トリオ 今年もお目見え | |
| 5 | 調査精度の高さに信頼 | |
| 6 | ヒートショック対策の決定版 | |
| 7 | 躍進が考える木材と日本文化 ⑦ | |
| 9 | 平屋を考える | |

誓願出陣式挨拶

第27期を迎えるにあたり



代表取締役社長の笠井正行です。平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。躍進も今期から第27期に入りました。来たる2025年2月8日土曜日に「第27期誓願出陣式」を開催いたします。

2025年のスローガンは、「価値創造の3作り！ お客様第一主義を貫き通す！」ですが、やはりこれが第27期における事業の基本の方針になります。

3作りとは、人作り、物作り、現場・暮らし作りの3つですが、“お客様のお客様”でありますお施主様に安心していただける社員を育てる人作りが一番の要となります。

そのためには、人としての基本動作と環境整備が柱となり、感謝の心・誠実な心、礼儀・礼節・躊躇、規律、整理整頓、清潔を実行して、人作りが行われるのであります。社員には、今まで以上に意識して仕事に臨んでほしいと思っております。それが物作りの基本となるのです。

躍進の物作りは、点検業務から入り木材保存、防水、塗装など多岐にわたるサービス提供が本質です。それにはいつもお客様の役に立つ、より必要とされる事業（新事業）開発を胸に秘め、よりよいサービス提供に徹しています。人作りによってどこにも負けないハイクオリティなサービスの提供が可能となります。



クルーは
全社員!!

ゲストは
躍進の大切なお客様です！

今まで月例会で、各部署ごとの活動報告をしてまいりましたが、現在ではそれに加えて事業部責任者が発表する場を設けております。行動結果の発表に加えて、その時点で問題・課題になっていることを明らかにすることで素早く対応し、より良い事業にバージョンアップしていくような仕組みになっています。

そしてこの仕組みが全員営業につながっていくのです。2024年のスローガンが、「原点回帰！お客様第一主義の全員営業！」なので、2025年もその延長線上にあるのです。その上で防水、防蟻（木材保存）、A&R（アフターアンドリフォーム）の各事業でどのようにしたらお客様に喜んでいただけるかを全社で考えることで、全員営業が成り立つのです。

またおかげさまで、年間の総点検数が増加傾向にあります。特に今期は今まで実施してきた床下防蟻工事と排水管洗浄に加え、10年点検が始まります。防水工事、塗装工事、シール工事や雨漏りの10年の保証も始まり、躍進の3本柱とも言える防水、防蟻（木材保存）、塗装事業が大きなつながりを持つのです。つまり総合的なご提案が可能になるわけです。

このように仕事は増えるものの、決してクオリティを下げることなく、極めてハイクオリティの正しいサービスを総合提案できるのは、1にも2にも人作りを最重点項目に据えているからです。

また、2020年の22期に、「2030年までの10年間で20代と30代の青年で運営・経営できる組織作りの宣言、旗揚げ」をしました。そして今期はその前半の最終年に当たる折り返し直前の1年なのです。

もちろん20代、30代の青年は実働部隊で、40代以降の社員は教育、マネジメントに今まで以上に一層従事し、年代のバランスが取れた組織作りを実現します。それを踏まえ若手は何よりも経験を積んで活かし、成長と挑戦をし続けてほしいと願っています。そしてお客様に喜んでいただいたり、感動してもらったりすれば、間違いなくやりがいに通じると思います。

20代、30代で、こうした“感謝の声”を直接聞ける機会というのは人生の財産になります。特に30代になれば、これまで蓄えた実績を踏まえて、お客様に新たな提案をすることもできます。おかげさまでポテンシャルが高く将来性が有望な若手が揃っているため、2025年はより加速度的に成長し、10年間で20代と30代の青年で運営・経営できる組織作りが間違いなく達成できます。

私にとっては、代表取締役社長に就任して3年目の事業年度ですが、前述のとおり10年点検も始まり、同時にリフォーム需要にも活気が出てきます。これをスポット需要にすることなく安定的な事業とすれば現場・暮らし作りが実現し、真の「地域のホームドクター」になれると確信しております。

年頭所感の繰り返しになりますが、躍進が取り扱う防蟻（木材保存）・防水工事は、5年、10年の保証を要するものです。それには、長いお付き合いを前提とした、信用のおける人作りが基本となります。それがお客様、お施主様の安心につながると信じているからです。

その上に立って、物作り、現場・暮らし作りが実現でき、企業としての維持・発展が可能となります。今期はこの価値創造の3作りを徹底して、より一層のお客様第一主義を貫き通す所存です。全社一丸となって邁進いたしますのでよろしくお願ひ申し上げます。

今年の1文字をつなげました！

躍進は毎年、社員に対し今年の決意表明として、それを漢字1文字で表しています。2025年は以下の通りです。

笠井輝夫会長「知」、笠井正行社長「勝」、笠井取締役「健」、三塚正樹部長「一」、宮内淳一部長「喜」、関雄介取締役「遂」、松原詢樹主任「誠」、笠井美咲「成」、木暮信良「伝」、白石純大「進」、宮崎陽平「芽」、菊地佑佳「改」、周偉健「成」、渡邊裕子「繁」、馬場希「読」、橋本侑典「証」一となります。

そして今回、この16個の文字をつなげて、以下の標語を作つてみました。

「失敗は成功の基」と言い、正しくPDCAサイクル回し成果を上げることで完遂するのです。それには誰よりも誠実であるべきで、それが成功の芽となります。同時に常に相手の心を読んで、自分の意見が正しく伝わるようにしなければなりません。そして失敗しても改めることを恐れてはいけません。それこそが仕事に対して真摯である証なのです。心身はいつも健康で、頭の中は常に知識と知恵の草が繁つていれば、何事においても邁進し勝ち続けることができ、一番である喜びにいつも溢れかえるのです。

2025年 注目商品ランキング

1

春の床下トリオ 今年もお目見え

躍進のリフォーム総合提案「足場パック」における、スプリングキャンペーンの代名詞が『飛騨炭 床下調湿材』『カーボエース』『床下用攪拌・換気システム』の「床下3点セット」(写真参照)です。



セラミック炭から作られた脱臭調湿材『飛騨炭 床下調湿材』は、床下に1坪あたり約12袋敷つめるだけで床下の湿気をコントロールします。底面をフィルム加工しておりますので地面からの湿気もシャットアウトします。

同じく、セラミック炭から作られた土壌改良材『カーボエース』は、保肥性、保水性に優れ、病害虫の発生を抑制します。また、土中から放出されるガスを吸着するほか、pH調整機能、土中有効微生物の繁殖促進効果もあります。

『床下用攪拌・換気システム』は、中央部設置によるダイレクト換気(新方式)により1台で20坪までの床下をカバーします。これは、従来の床下換気扇3台分に相当します。換気と攪拌機能を同時に搭載した高効率換気システムであり、床下中央部の高湿エリアをダイレクトに攪拌換気します。これにより、布基礎や基礎パッキン工法、基礎断熱工法等、あらゆる構造の床下に設置可能です。

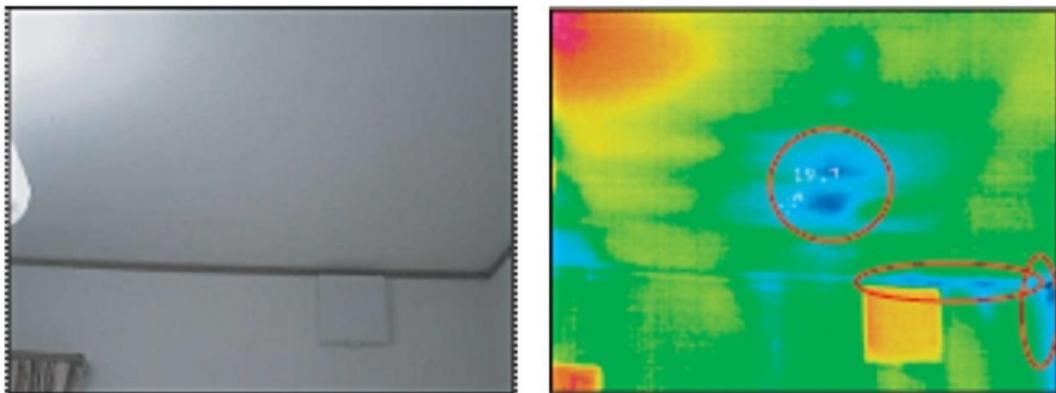
春の床下トリオである「床下3点セット」のご注文、お問い合わせは躍進までお気軽に。

2

調査精度の高さに信頼

専門の調査会社が、調査・補修をくりかえしていくながらも、一向に雨漏り被害が改善されないという、そんな悩みを一気に解決したのが、サーモグラフィ法による『赤外線漏水調査システム』です。

赤外線は、温度を持つすべての物体から、その温度に応じた波長分布によって、自然に放射されます。その波長分布を、色画像として示し、様々な状態を分析する装置がサーモグラフィです。そのため、今まで発見できなかった雨漏りの侵入口も、明確に特定することができます。サーモグラフィの特徴は、広い面積を同時に捉えることができるため、モニター上に映し出される温度の相対比較を、ひと目で分析できます。



例えば、上の2枚の写真は、天井の一部と天井と壁の間が漏水している写真です。

サーモグラフィ上では、部屋全体の温度は、緑色で表示されています。そして、暖房などで室内が暖まると赤色に変化します。しかし、漏水箇所は水色で表示されるのです。サーモグラフィ上では、丸で囲った部分には、水色を通り越して、濃い青色が示されており、ここが漏水箇所であることが分かります。

まさに、『赤外線漏水調査システム』は、熟練のプロの技をビジュアル化した最高のアイテムといえます。さらに、雨漏り調査・修繕にかかるコスト・時間を、合理的に縮小・短縮できます。ご依頼、お問い合わせは、躍進までお気軽に。ご連絡をお待ちしております。

3

ヒートショック対策の決定版 浴室換気乾燥暖房機

躍進では、ヒートショック対策用の**浴室換気乾燥暖房機**として、「壁面タイプ／浴室用／防水仕様」、「同／脱衣室・トイレ・小部屋用」、「同／換気扇内蔵タイプ」、「同／換気扇連動タイプ」、「天井取付タイプ」(写真参照)をご用意いたしました。

浴室用モデル



涼風暖房機：防水仕様
SDG-1200GB ●電源コード(棒端子接続)タイプ

脱衣室・トイレ・小部屋用モデル



涼風暖房機：非防水仕様
SDG-1200GS ●電源プラグ(コンセント差込)タイプ

生活防水 壁面取付タイプ[®] (特定保守製品)



BF-861RX
BF-861RXR

天井取付
タイプ

特定保守製品

2室 同時換気

浴室にプラス1室を同時換気。
乾燥中でも他室の同時換気が可能。

NEW

冬場の浴室の脱衣所やトイレ、廊下などで寒さにさらされると、血管の過度の収縮により血圧が急変動し、脈拍が早くなり、高齢者の場合、心疾患や脳障害などの事故につながることもあります。最悪の場合、急性心不全、心筋梗塞、くも膜下出血などによる突発的な死を引き起こします。

65歳以上の方は、たとえ健康に自信があったとしても、入浴時には注意が必要です。脱衣所と浴室の温度差が10°C以上にならないように注意しなくてはなりません。さらに、高血圧・糖尿病・動脈硬化のある方、肥満気味の方、睡眠時無呼吸症候群や不整脈がある方、お酒を飲んでから入浴する習慣のある方などはヒートショックに要注意です。

入浴前にその都度浴室をシャワーで暖めたり、脱衣所にファンヒーターを移動したりするのでは、負担が大きいままです。浴室換気乾燥暖房機によって、安心・安全を確保してください。ご注文、お問い合わせは、躍進までお気軽にご連絡ください。

躍進が考える 木材と日本文化 ⑦



宮大工の勘は機械よりも正確

「千年の檜には千年の命が宿っています。木は大自然が大切に育ててきた命です。千年間、山で生き続けてきた命なのです。それを伐採して建物にするからには、その木の命を第一に考えなければなりません。この命を最大限に活かす、それが宮大工の務めなのです」

これはアメリカの CNN の日本特集番組に出演した宮大工さんが亡くなる直前に発した言葉です。この番組はアメリカで大きな反響を呼び、アメリカ人の若き建築家は、「彼が『宮大工の匠』と呼ばれる理由がよく分かったよ……。彼の手には指の先々にまで日本の職人魂が宿っている……」として、その後木造の設計を多数手がけるようになったのです。

しかしこの番組では冒頭で、年老いた宮大工さんが刃物を研いでばかりいる映像を流していたため、効率性を重視するアメリカ人の視聴者の目には、「日本の老人は電気工具も使えない役立たずだ……！」と嘲笑されたのです。

棟梁と呼ばれる年老いた大工の指示のもとに工事が進められていましたが、職人たちは皆道具の刃を研ぐことに一生懸命でした。そして 1 時間以上経過した後に木を削りはじめますが、その作業もゆっくり丁寧に進められていました。

これを見ていた前述の若きアメリカ人建築家は、余りの仕事の遅さに苛立ちを感じ、おまけに番組の会場からも「こんな原始的なことをしていたら、いつまで経っても仕事は終わらない」などの声が聞こえてきたのです。

しかし、「非効率にこだわるのは独自の工法があるはずだ」と、前述の建築家の姉は指摘し、さらに「宮大工さんの勘は機械よりも正確だ」と主張する、姉の友人の日本人留学生（建築学専攻）の言葉が耳から離れませんでした。決してスピーディではないものの、極めて正確かつ完璧な仕事を見るため、そのアメリカ人建築家は 10 年後、日本の古い建造物を学ぶため来日します。

千年後を見据えて建築

10年ぶりに再会した日本人留学生は、「建築において唯一無二の存在になるため、日本の歴史、自然、人々の暮らしなどを総合的に学んでいる」と言い、長年の勘で1ミリの狂いもない仕事をする宮大工さんの技術をアメリカ人建築家に紹介します。

ご存知のように宮大工さんは、一般的な大工さんとは違い、神社や仏閣のような伝統的建造物の建築・復元をするのが仕事です。腕前だけでなく、その建造物が生まれた背景や歴史などの知識も要求されます。

宮大工さんの仕事は広範囲にわたります。神社や仏閣だけでなく、お城やお神輿、それに備え付ける装飾品や木彫も手掛けるのです。まさに多様な文化財の建築・保全に携わっているのです。

しかし宮大工さんの修業は、コンピューターや機械に依存する事なく、師匠に弟子入りし、口伝(くでん)で学ぶスタイルが多いため、誰もが一人前の宮大工さんになれるわけではなく、現在は100人ほどしか存在しなくなってしまいました。さらに資格制度もなく、最低10年の見習い期間を経て、現場で身に付けた高度な技術を発揮できて一人前と認められるのです。

そんな宮大工さんの仕事で、特に前述のアメリカ人建築家が驚いたのは釘を一切用いない木組み工法でした。木の性質や木目の流れを活かして柱や梁をつなぎ合わせるものです。

そして世界最古の木造建築である法隆寺を見学し、日本人の友人から「法隆寺は千年後を見据えて建築されている」ことを教えられます。なぜなら木材は、伐採後も少しづつ変化するので、それを踏まえて組み立てられているからです。

さらに法隆寺の五重塔は独自の免震工法を誇り、礎石の上に置かれた心柱(しんばしら)と、底の重さを支える16本の柱によって、地震の揺れを吸収する仕組みになっています。各階が緩くつながっているだけで、地震の振動が伝わるとその波に乗るように動くのです。

前述のアメリカ人建築家は、日本の建築物に魅了され、自分が進むべき道である自然と共生する木造建築のスペシャリストとして活躍しているといいます。そんな彼の心の支えとなっているのが冒頭の宮大工さんの言葉です。

そんな宮大工さんの日々の努力があるからこそ、日本文化は世界の人を魅了し続けているのです。同時に、宮大工さんが建てた神社仏閣の美しさを取り戻す躍進の『Air 鉢』も大いに人気です。ぜひご利用ください。ご連絡をお待ちいたしております。

平屋を考える 住宅コラム

ある住宅研究所の調査によると、住宅購入を検討している20歳以上(男女343名対象)において、戸建て住宅なら平屋に魅力を感じる人が全体の半数を上回る結果を得ました。従来主流だった2階建て物件は4割に留まり3階建て住宅は6%にも満たない状態でした。

しかしこれは、急に人気が高まったもので、2022年に行った同様の調査においては、平屋の人気は13.5%で、この1~2年で急激な伸びを見せたと言えましょう。これはコロナ禍と密接な関係があるようです。

平屋で十分な部屋数を確保しようとしたら、言うまでもなく広い敷地を必要とします。その敷地に設ける部屋は、ずばりテレワーク用の空間なのです。コロナ禍はほぼ收拾したように思えますが、一旦定着してしまったテレワークはその後も空間を必要とし、リビングや寝室をテレワーク部屋にしたくないという思いがあるようです。

しかしそれならば、2階建て、3階建てで、容積率が許す範囲でテレワーク部屋を設ければ良いではないかと思われますが、終の棲家としても考える場合、上下移動の無いバリアフリーの実現が可能で、動線の確保も合理的になります。

そして何よりも高い耐震性が確保できます。木造住宅の場合、言うまでもなく階高が高くなれなるほど耐震性は低下します。しかし平屋で、太い梁・柱、軽い屋根材を用いれば、大地震でも倒壊はおろか、半壊すら起きない耐震性を確保できます。

もちろん、水害の多い地域では平屋だとあつという間に家のすべてが水没してしまいますが、高台に建築すれば水没を悩む必要もありません。また何と言っても平屋が醸し出す高級感はステイタスにもなります。

老化に伴う階段の上り下りは、他人が思う以上に辛いものです。上りは筋肉痛を覚悟し、下りは転倒防止に気を遣わなければなりません。せっかくの2~3階建て住宅も無駄になってしまいます。

もし郊外にお住まいで、敷地に余裕があるお施主様であれば、平屋のメリットを十分に考えた家づくりをお薦めしてはいかがでしょうか。

株式会社 **躍進**

本社 〒337-0043 埼玉県さいたま市見沼区中川106-1
TEL 048-688-3388 FAX 048-680-7615
東京 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFIビル2F
営業所 〒103-6804-2541 FAX 03-6804-2542
URL=http://www.yakushin.jp E-mail=yakushin-no1@nifty.com

関連会社 不動産事業
株式会社 ヤクシンジャパン

関連会社 株式会社
First Arrows
ファーストアローズ

事業内容

防水工事:FRP、ウレタン、塩ビシート、ゴムシート、アスファルトシーリング、注入、ピンニング、シングル葺き

木材保存工事:床下点検、シロアリ駆除及び予防、調湿剤、床下換気等

塗装工事:各種塗装

外部点検:屋根、陸屋根、バルコニー、外壁等診断